

世界初、へその緒を利活用した国産の細胞医薬品化を目指す

## 東京大学と「早老症」に関する共同研究を開始

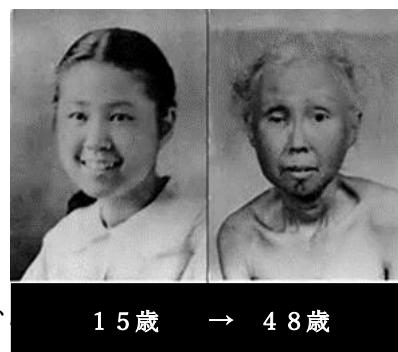
### ～治療法のない難病対策と健康寿命延伸に向けた挑戦～

臍帯（へその緒）の細胞を活用した細胞医薬を研究開発するヒューマンライフコード株式会社（代表取締役社長：原田 雅充、所在地：東京都中央区、以下「当社」）は、国の指定難病を含む「早老症」に対する治療法開発に向けて、国立大学法人東京大学（東京大学医科学研究所、以下「東大医科研」）と2021年8月に共同研究を開始いたします。

#### 【共同研究の背景】

早老症は、老化の兆候が実際の年齢よりも早く全身にわたって見られる病気です。約10の疾患が含まれており、その中には「ウェルナー症候群」や「プロジェリア症候群」などの国の指定難病が含まれます。特にウェルナー症候群は、世界で報告された症例の3分の2が日本人という日本人に多い疾患で、国内の推定患者数は約2,000人で、およそ5～6万人に一人と推定されています（※1）。しかし、その多くは見過ごされており、現状は十分に把握されておられません。

老化の兆候が進むにつれて、白内障、糖尿病、皮膚潰瘍、動脈硬化、サルコペニアおよび悪性腫瘍など高齢者特有の疾患を合併し、生命予後や生活の質（QOL）を大きく損なっています。現在、根本的な治療法はなく、治療薬の開発が望まれています。



出典：ウェルナー症候群  
国際レジストリ登録（ワシントン大学病院）

#### 【共同研究について】

東大医科研の中西真教授らにより、老化細胞を選択的に除去するGLS1阻害剤が、加齢現象や老年病、生活習慣病を改善させることを見出し、2021年1月に世界で権威ある学術雑誌の一つとされるサイエンス誌に報告されました（※2）。本研究成果を有する東大医科研と、加齢性疾患の一つであるサルコペニアに対する臍帯由来間葉系細胞の研究成果を有する当社が連携することで、より安全かつ効果的に老化細胞を選択除去し、加齢以上に老化が進む早老症をコントロールできる新たな治療法を一刻も早く確立することを目指します。また、本研究を通じ、難病対策のみならず、高齢化が進んでいる日本の健康寿命延伸という課題解決につながる抗老化療法の研究モデル構築にも貢献します。

※1 難病情報センター <https://www.nanbyou.or.jp/entry/5320>

※2 東京大学医科学研究所 [https://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/about/press/page\\_00065.html](https://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/about/press/page_00065.html)

本件に関するお問い合わせ先：

広報担当 林 友紀

E-mail: [info@humanlifecord.com](mailto:info@humanlifecord.com) / TEL: 080-4671-0405